

6. 救急医療体制の変化

1) 木曽地域の救急医療体制

木曽地域には第二次医療を担う中核病院として県立木曽病院が木曽福島町に立地しており、木曽地域の唯一の病院として、24時間の救急対応を担っている。しかし、木曽病院の病床数が限られていることや、担当医師が不在の場合、あるいは災害時に大勢の患者が搬送される時など、木曽病院だけでは対応できない場合がありうる。その場合、現在、木曽地域に最も近い救急医療機関(塩尻市)へは木曽福島町から40分～50分、高度先端医療を担う「特定機能病院」である信州大学病院へは1時間以上もかかり、今後、搬送時間の短縮が課題となっている。

表 6-1 医療施設と病院数

	病院数	病床数	人口	人口と病床数の割合(人/床)	一般診療所数
木 曽 地 域	1	271	40,119	148	23
上伊那地域	12	1,602	192,424	120	116
長 野 県	139	24,927	2,215,168	89	1,467

注:入院病床数が20以上を病院、20未満を診療所とする。

資料:厚生労働省「医療施設調査」平成15年

2) 連絡道路開通後の救急医療体制

伊那木曽連絡道路開通後、上伊那地域へ約30分で結ばれることから、上伊那地域と高度医療ネットワークが形成される。上伊那地域には12の病院があり、病床数も1,602と、木曽地域に比べ約6倍もある。伊那市に立地している伊那中央病院では、県立木曽病院では扱っていない呼吸器科、呼吸器外科、心臓血管外科があり、救急患者だけではなく、外来患者として上伊那地域の病院へ通院する人も増加すると期待される。そのため、おんたけ交通(株)では、木曽福島町と伊那中央病院とを結ぶバス路線の開設を検討中である。

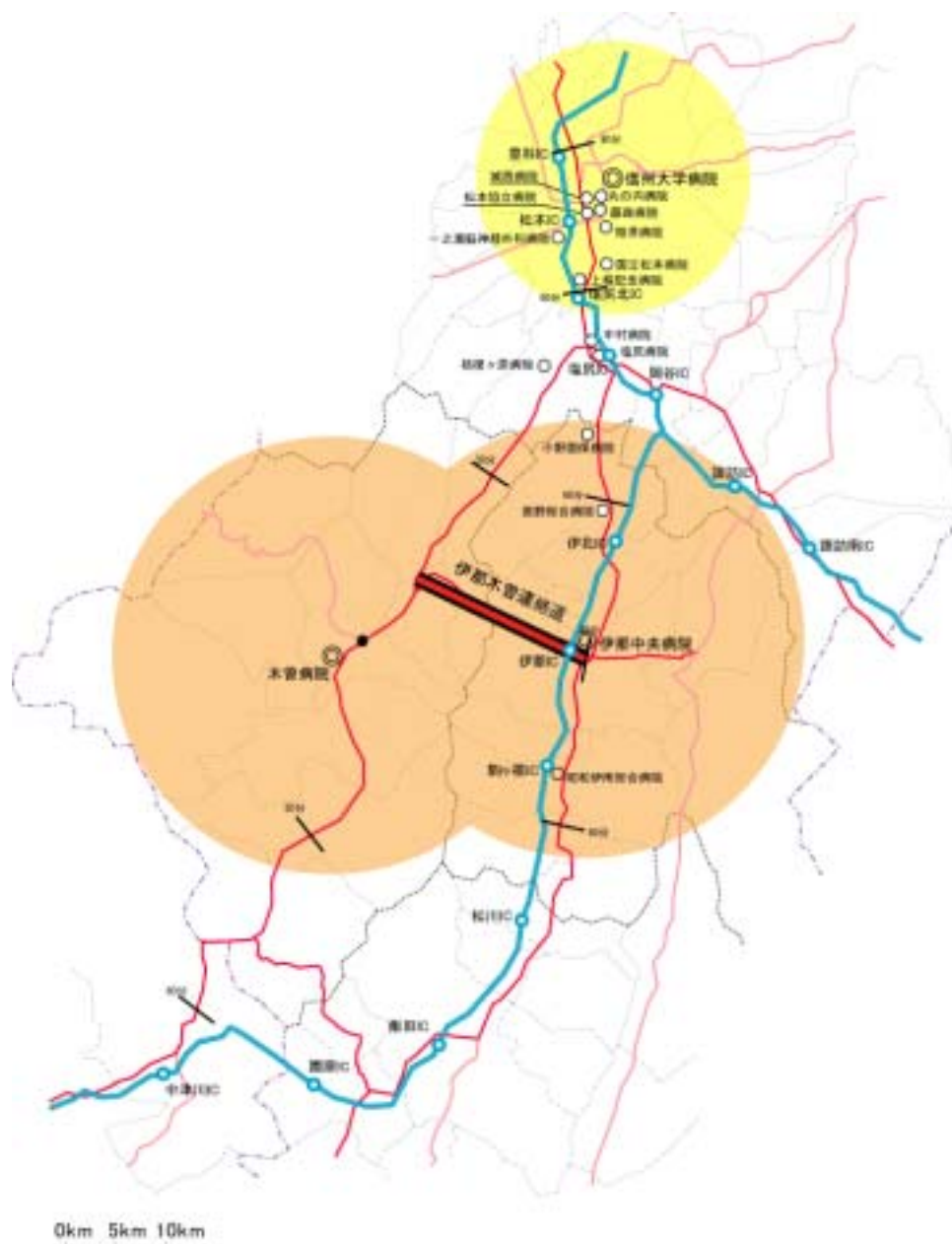


図 6-1 高度医療ネットワーク